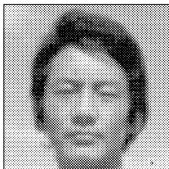


ソナム・ワンギェル (ツパ・リンポチェ 僧侶) 42才 死亡 2012/1/8



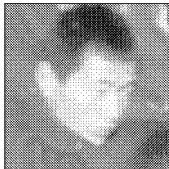
ダウンキャップ僧院の転生ラマ。ゴロク、ダルラク県の警察署の前で焼身抗議を行った。炎に包まれて倒れるまで「チベットに自由を！ 法王に長寿を！」と叫び続けていた。火を放つ前に配ったチラシには「自分個人の栄光のためではなく、チベットとチベット人の幸福のために」命をかけた行動を取ることが記されていた。警察には遺体の引き渡しを要求する数百人のチベット人が集まった。養老院や孤児院を運営し、地域の尊敬を集める僧侶だった。

ロプサン・ジャミヤン (元僧侶) 22才 死亡 2012/1/14



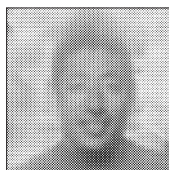
元アンドウ寺僧侶。ンガバ・キルティ僧院近くで自らの身体に火を放った。警察は消火すると彼を殴打した。(その様子は)見るに耐えられぬもので大勢の群集が瀕死の男性を取り戻そうとする抗議が発生した。当局はさらに武装警察を出動させると銃撃をはじめた。警察と群集の乱闘の中、ついには2人が銃で撃たれたが、詳細は今も不明。

リクジン・ドルジェ (元僧侶) 19才 死亡 2012/2/8



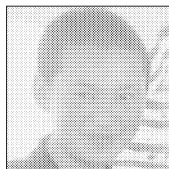
元キルティ寺僧侶。ンガバの第二小学校前で焼身抗議。事件直後、保安要員が到着の後に炎を消火、ンガバ州の病院へ収容され、その後ンガバ州の中心都市であるバーカンの病院へ移送された。性格は控えめで僧院ではハトの飼育係をしていたという。彼は優しく、仕事に励む子供であった。2010年に還俗し、その後は家の牧畜の仕事を手伝っていた。

ソナム・ラブヤン (僧侶) 37才 生死不明 2012/2/8



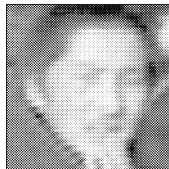
ラブ寺僧侶。カム・ティドゥ県ラブ郷で焼身抗議。彼はラブ寺の僧侶であったが、街中に出て、自らの身体に火を放った。命は助かったと伝えられているが、今もって定かではない。前日に近隣で抗議活動があり、ラブ寺では僧院長と高僧が拘束、連行されていた。

テンジン・チュドウン (尼僧) 18才 死亡 2012/2/11



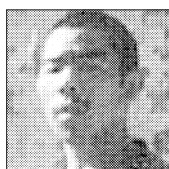
アムド、ンガバのマミー尼僧院の尼僧。午後6時頃、尼僧院の近くにて自らに火を放った。中国政府に対する抗議のスローガンを叫んでいた。軍と警察が直ちにやってきて、彼女をバーカンへと連れ去った。新華社通信は彼女がその後死亡したことを確認。尼僧院は軍によって封鎖された。テンジン・チュドウンは寡黙で戒律をよく守り、勉強に打ち込んでいた。2011年10月17日焼身抗議、死亡したテンジン・ワンモと同じ尼僧院だった。

ロプサン・ギャンツォ (僧侶) 19才 生死不明 2012/2/13



キルティ寺僧侶。ンガバ市街中心部の路上で中国政府への抗議のスローガンを叫び、焼身抗議を行った。彼はすぐに人に取り囲まれ、火は消されてその場から助けられた。現場の近くにいた二人の若者は暴行を受け、一人は逃げたが、もう一人は警察に連行された。現在の所在と状況は不明。4人兄弟の長男で、僧院では勉強に秀でていた。

ダムチュ・サンポ (僧侶) 38才 死亡 2012/2/17



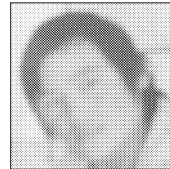
ボンダク寺の僧侶。アムド、テムチェン県センゲ郷ボンダク寺で焼身抗議し、まもなく死亡した。ダムチュは僧院の教師であり、民主管理委員会(中国政府が僧院を管理するために設けた組織)の役員でもあった。2012年1月、僧院における監視は、愛国的な再教育プログラムの実施に対する抗議のあと、より強化された。後日、彼の焼身を唆したとして同僧院の僧侶3人が9~11年の刑を宣告された。

ナンドル (僧侶) 18才 死亡 2012/2/19



アムド、ザムタン県バルマ郷のザムタン・チョナン寺近くで焼身抗議、その場で死亡した。亡くなる前に「ダライ・ラマ法王が一万年長生きされますよう！」「チベットに自由を！」と叫んだ。中国の警察当局は彼の遺体を収容しようとしたが、僧院の僧侶たちは遺体を引き渡すことを拒否、何百人ものチベット人がザムタンに集まって彼を見送った。彼は同胞に、チベットの服を着てチベット語を話し、チベット人であることを忘れるな、と語った遺書を残している。

ツェリン・キ (学生) 19才 死亡 2012/3/3



甘粛省で初めての焼身。アムド、マチュの野菜市場で焼身抗議。周囲の漢族らは彼女に石を投げつけた。遊牧民出身でチベット族中学の学生。以前から「焼身抗議が続くことは理解できる。誰もこのような生活を続けることはできない」と語っていた。一か月の冬休み後に町へ帰った次の日に亡くなった。マチュの中学生たちは2010年に抗議デモを複数回行ない、実刑を受けた者もいる。

リンチェン (主婦) 32才 死亡 2012/3/4



ンガバ・キルティ寺入口近くの警察署の前で「チベットに自由を！」「ダライ・ラマ法王のご帰還を！」と叫びながら焼身抗議を行った。地元の人々はリンチェンの亡骸を僧院にはこんで弔った。昨年夫と死別したばかりの彼女は遊牧民の出身で、4児の母。子供達は上は10代前半から一番下の子どもはまだ数ヶ月の赤ん坊である。

ドルジェ 18才 死亡 2012/3/5



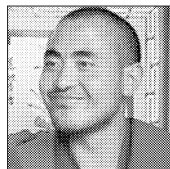
アムド、ンガバ県内のチャロという町の政府庁舎の前で焼身抗議を行った。彼は市外地の外側にある橋の近くで自分の身体に火を放つと、燃えながら官庁へ向かって歩き、崩れ倒れた。チベット人たちが遺体を運ぼうとしていた時に保安部隊が駆けつけて遺体を奪い去った。

ゲペ (僧侶) 18才 死亡 2012/3/10



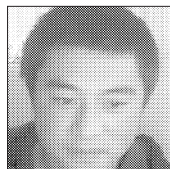
キルティ寺僧侶。チベット蜂起第53回目の記念日にアムド地方ンガバの軍の駐屯地近くで焼身抗議。軍はゲペの遺体を家族へ返せという地元の人々の要請を拒否した。家族5人が翌日に行われた火葬に参列するのを許可されただけであった。また、母親は丸二日間警察に拘束され、尋問を受けた。

ジャムヤン・ペルデン (僧侶) 34才 死亡 2012/3/14



アムド、レブコンのロンウオ寺前の広場で焼身抗議。最初に地元の病院へ運ばれたが、中国当局による逮捕をおそれた何人かの僧が彼を僧院へ連れ戻した。9月29日死亡。焼身抗議後、500人もの僧侶が広場に集まり、じきに多数の地元の人々も加わった。ジャムヤンのための祈りが始まり、ダライ・ラマ法王のチベットの帰還を願うチベット人たちの平和的な抗議へと大きく広がった。

ロプサン・ツルティム (僧侶) 20才 死亡 2012/3/16



キルティ寺僧侶。アムド、ンガバの路上で焼身抗議。彼は抗議スローガンを叫び、拳を突き上げながら街を歩き、焼身抗議を行ったという。警察隊は彼を殴り倒すと、トラックの後ろへ放り投げて連れ去った。4人兄弟の長男で、8才の時に僧侶となった。控えめで戒律を守る僧侶であった。キルティ寺では1年前の同じ日にロプサン・ブンツォが焼身、死亡している。